

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	基礎機械電気工学 (Fundamental Mechanical Electrical Engineering)		
ナンバリングコード	J10101	大分類 / 難易度 科目分野	機械電気工学科 専門科目 / 基礎レベル 専門基礎
単位数	2	配当学年 / 開講期	1年 / 前期
必修・選択区分	・機械電気工学科全コース 必修科目 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	J180501	クラス名	-
担当教員名	清水 良、稲川 直裕、原田 敦史		
履修上の注意、履修条件	・講義に出席し、演習問題や宿題を自分で確実に実施すること。 ・電卓等の計算機器を持参すること。 ・講義内容や講義に関係する事をTWなど、SNSに投稿しない その他は備考欄参照。		
教科書	必要に応じて指定、またはプリントを配布します		
参考文献及び指定図書			
関連科目	機械力学、材料力学、熱力学、流体力学、構造、設計、自動車、ロボット、エネルギー、メカトロニクス、機械電気計測、電気・電子工学等に係る科目全般		

○基本情報			
授業の目的	機械電気工学科のディプロマ・ポリシー「機械と電気の両工学分野にわたる基礎・基幹技術を習得の上、工学基礎から応用に至るプロセスを理解し、情報技術を駆使して工学的諸課題に対する技術的な判断と対応ができる。」に基づき、以下の3点を修得することを目的とします。 前半(第2週～第8週) 基礎機械電気工学として、今後学ぶ各種力学・電気工学の基礎となる物理数学を習得します。 後半1(第9週～第13週) 専門教科に進む前に必須なエネルギーと振動(交流現象含む)について理解を深めます。 後半2(第14週～15週) 基礎電気工学は、産業と直結する機械・電気・メカトロニクス分野の基礎を電気電子分野を中心に広く理解します。また、メカトロニクス分野についての基礎を修得します。		
授業の概要	前半(第2週～第8週) 物理数学の基本となる力学を中心に微積の活用など、必要な基本スキルが身に着く様、講義、および中間試験を実施します。 後半1(第9週～13週) エネルギー／振動それぞれについて、基本問題を中心に講義を行います、また同じく振動である交流についても説明します。中間試験日は設けず、小テストを行います。 後半(第14週～15週) PC上で電子回路・マイクロコンピュータシミュレーションが可能な3D-CADを用いて、基礎的な電気現象や、電圧、電流、抵抗、磁気、電気回路、静電容量、オームの法則などを実践的に楽しく修得します。毎回の講義終了時に原田様式の講義ノートを提出します。試験は実施しません。		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」	
	(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」	
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」	
地域志向科目	該当しない		
実務経験のある教員による授業科目	・実務経験者名: 稲川直裕 ・実務経験のある教員が行う教育の内容: 電子回路、マイクロコンピュータ計測、3D電子回路シミュレータ、電子回路とコンピュータプログラミング、オームの法則を用いた実践回路 ・実務経験者名: 清水 良 ・実務経験がある教員が行う教育の内容: 物理数学の解説		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	講義内容への関心と意欲を持ち、積極的に参加すると共に、自発的な学習態度が身につけている。		10点	5点
【知識・理解】	○機械工学および電気電子工学に関する重要な技術用語および数式などを理解できる。 ○企画、設計、製造とつながるモノづくりの流れを理解することができる	15点	20点	
【技能・表現・コミュニケーション】	○機械工学および電気電子工学に関する重要な数式をもちいて、計算する技能を修得している。	20点	25点	
【思考・判断・創造】	講義中に得られた内容を自立して考え、安易に外部の情報に頼るのではなく纏めてノートに記述できる能力を修得している。		5点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。 ※各担当それぞれで合格レベルに満たない場合は単位取得は出来ません。	
課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。	

○その他	
○ 講義内容に関する質問はオフィスアワーの時間を利用して相談すること。	
前半(第2週～第8週)[清水担当分] ○ 授業の資料はクラスルームで掲示するので活用すること。 ○ 中間確認試験に関しては、正答率が悪かった問題は講義内で解説します。 <その他参考図書> 機械工学SIマニュアル改訂第2版(日本機械学会, 2009, 丸善株式会社, ISBN978-4-88898-052-4) 統計学の図鑑～まなびのずかん(涌井 良幸、涌井 貞美, 技術評論社, ISBN978-4774173313) 基本統計学[第5版](宮川 公男, 有斐閣, ISBN978-4641165960)	
後半1(第9週～第13週)[原田担当分] ○ 授業の資料を掲載するホームページのアドレスを講義開始前までに通知するため、各自登録すること。 ○ 評価は小テスト2回とレポートで評価します。とくに、小テストによる割合が大きいので、よく勉強して望むこと。 <その他参考図書> 清水先生と同じです。	
後半2(第14週～15週)[稲川担当分] ○教科書: 指定無 参考図書: 必要に応じて指定します ○試験は実施しません 講義の取り組みの姿勢やレポート(googleなどで指定)で評価します ○試験を実施しないため、個々の講義が重要です。必ず全回出席を目指して下さい。 ※14-15回のいずれかの回で関連専門分野の外部講師をお呼びして技術的なスピーチ(ミニ講演)を実施する場合があります	
■関連技術や教職課程・就職・工場での技術者業務・進学関連・副専攻・電子回路・マイクロコンピュータ応用等の相談も受け付けています。 4218への来室またはgoogleクラスルームからの個別問い合わせメールなどでどうぞ(稲川)	

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	基礎機械電気工学 (Fundamental Mechanical Electrical Engin 清水 良、稲川 直裕、原田 敦史	授業コード	J180501
学修内容				
1. 新1年生スタートアップセミナー 大学での授業、講義の履修方法等について理解を深めてください。				
予習	特に無し			約2時間
復習	特に無し			約2時間
2. ガイダンス(講義概要等説明)および機械工学の単位／数学の基礎1[清水担当] 基礎機械電気工学の概要、重要項目、適用先、講義要領、および成績評価基準等を説明します。 機械工学や電気工学に関するSI単位や10の累乗数の計算に関する説明を行う。 また、全ての力学／電気工学で活用される三角関数および関連する定理を説明する。				
予習	シラバスを確認し、関連科目の復習をすること			約2時間
復習	復習用のプリントを配布する			約2時間
3. 数学の基礎2[清水担当] 機械力学や流体、電磁気等を学ぶ際に必須となるベクトルとその内積を説明する。 また電気の交流回路や制御工学、機械力学などにでてくる複素数表現について、説明するとともに、指数や対数についても復習します。特に制御工学などででてくる対数グラフの使い方なども実習します。 ・複素数と極座標表現を説明する。 ・指数対数を説明する。				
予習	2回目の講義の中で予習すべき項目を連絡する			約2時間
復習	講義中の例題を中心に復習する事			約2時間
4. 数学の基礎3[清水担当] 機械／電気工学で必須の数学のうち微分・積分を説明する。また工学で良く用いられる微分表現による式の作り方についても解説します。 運動方程式と微分積分の関係を説明する。				
予習	3回目の講義の中で予習すべき項目を連絡する			約2時間
復習	講義中の例題を中心に復習する事			約2時間
5. 数学の基礎3[清水担当] 機械／電気いずれの工学において、データ処理などに活用される統計について説明する				
予習	4回目の講義の中で予習すべき項目を連絡する			約2時間
復習	講義中の例題を中心に復習する事			約2時間
6. 物理の基礎1[清水担当] 運動系の機械工学／電磁気等における物理法則の基礎となる質点系の力学を説明する。 運動量／エネルギー／仕事について説明する。				
予習	5回目の講義の中で予習すべき項目を連絡する			約2時間
復習	講義中の例題を中心に復習する事			約2時間
7. 物理の基礎2[清水担当] 質点系と同じく、機械電気の力学の基礎となる剛体の力学を説明する。				
予習	6回目の講義の中で予習すべき項目を連絡する			約2時間
復習	講義中の例題を中心に復習する事			約2時間
8. 中間試験および解説[清水担当] 第2週から第7週までの講義内容についての修得状況を確認します。				
予習	7回目の講義の中で予習すべき項目を連絡する			約2時間
復習	講義中の例題を中心に復習する事			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	基礎機械電気工学 (Fundamental Mechanical Electrical Engin 清水 良、稲川 直裕、原田 敦史	授業コード	J180501
学修内容				
9. 振動の基礎1[原田担当] 機械力学や制御工学、電気の交流理論の基本部分である、単振動などの振動について説明します。 交流回路(基礎、正弦波、位相)についても説明します。 また、共振回路を構成する静電容量とコンデンサの組合せ、コイルの磁束、磁束とインダクタンス等について解説する。				
予習	中間確認試験に向けて各自、勉学に励むこと			約2時間
復習	模範解答を確認し、解けなかった問題等を復習すること			約2時間
10. 振動の基礎2[原田担当] 質点運動の振動を例とし、機械力学や交流での振動を表現する運動方程式、及びその解法、各種振動を説明します。 交流回路(基礎、正弦波、位相)についても説明します。				
予習	事前に配布された資料を熟読する			約2時間
復習	講義中の例題を中心に復習する事			約2時間
11. エネルギーの基礎1[原田担当] 機械的なエネルギーや電氣的なエネルギー、及びそれらを変換して動力を得る場合に重要となる空気や水の流れに関する基礎的な事案を説明する。 また電気回路で必要となるコイルやコンデンサのエネルギーについても説明する。				
予習	事前に配布された資料を熟読する			約2時間
復習	講義中の例題を中心に復習する事			約2時間
12. エネルギーの基礎2[原田担当] 熱機関に限らず、各種機械や電気回路／装置の設計において重要となる熱発生を理解できるよう、身近な熱に関わるエネルギーに関する基礎的な事案を説明する。				
予習	事前に配布された資料を熟読する			約2時間
復習	模範解答を確認し、解けなかった問題等を復習すること			約2時間
13. 制御の基礎[原田担当] 機械や電気にかかわる制御手法に関する基礎的な事案を説明する。				
予習	事前に配布された資料を熟読する			約2時間
復習	提出した講義ノートの内容に沿って復習する事			約2時間
14. 電気回路について、直流回路、抵抗、オームの法則、静電容量とコンデンサの組み合わせ[稲川担当] 電荷、導体と絶縁体、電荷とクーロンの法則、電界と電位、電気力線と等電位線等について解説します。 電流とオームの法則電磁力と起電力、ピオ・サバールの法則、アンペアの周回積分の法則等、についても解説します。 3D電子回路CAD・シミュレータを使用する準備を行います。様々な電気回路について説明し、直流回路、抵抗の直列接続と並列接続、キルヒホッフの法則、重ねの理、補償定理等についてPC上で体験し、楽しく学びます。				
予習	各自PCを用いて学修予定内容について試行する事			約2時間
復習	提出した講義ノートの内容に沿って復習する事			約2時間
15. 交流回路／電子回路と組み合わせたセンサ、マイクロコンピュータについて[稲川担当] これまで学んだ電子デバイスを組み合わせて、RとLの直列回路、RとCの直列回路、交流回路等について解説すると共に様々な電子回路を構成します。さらにセンサやマイクロコンピュータについて、3D電子回路CAD・シミュレータなどを用いて分かりやすく解説します。				
予習	各自PCを用いて学修予定内容について試行する事			約2時間
復習	提出した講義ノートの内容に沿って復習する事			約2時間
16. 予備日 ※14-15回のいずれかの回で関連専門分野の外部講師をお呼びして技術的なスピーチ(ミニ講演)を実施する場合があります。				
予習				
復習				